

Free Paper! フリーペーパー



© KANAME-IHARANOBO



好評発売中!! 偕成社刊



さく 花山かずみ

『しづみのかんかん』のレトロガイド第2弾です。(注 花山かずみが勝手に発行中...) 1920~1930年系本に登場する大正生れのはるちゃんの子どものころの様子。今ではめずらしくなったり、びっくりする事もたくさんあります。ちよと紹介してみましょう!(注 紙本に載っていないもあり)

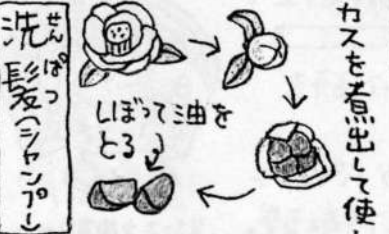


明治の女学生の代表的なヘアスタイル「マカレイト」
語源は「巻かれ髪」



日本でヘアアクセサリとして着けるようになったのは明治以降です。女学生の間で大きなリボンを着けるのがブームになり次第に小さな女の子たちにも広まってきました。下級生は上級生より大きなリボンを着けない等、色々なルールが...

「東のレート・西のクラブ」昭和の初めまでの日本の2大化粧品メーカー。宣伝合戦も盛んでした。
・クリーンローション(洗顔料)...2円・女神の肌(美容液)
・バタミルローション(乳液)...1円90銭...1円60銭
・まつ毛育毛剤...1円60銭 (昭和4年当時)



洗髪は月に2回程度...
東髪を美しくキープする為にあたらしい...
①洗髪料(シャンプー)をコップ1杯分(小麦粉+水)を煮溶したものを
2位 櫛の実のしぼりカス
3位 Gの白 (昭和4年当時)

束髪

この頃になると日本髪から束髪にヘアスタイルも変化していきました。「ダリア巻き」「ひなげし」「うずまき」等名付けられたスタイルが次々に登場。「耳かくし」は大正後期の代表的なスタイルです。大きさはだんだんコンパクトになりました。これは1種、女性が増えたことも関係があるようです。



一般的に女子学生スタイル
「ミツメ」
「ハナミ」
「コデウエー」
「マルセル」
「ポリー」
「ミツメ」
「ハナミ」
「コデウエー」
「マルセル」
「ポリー」

よそゆきのきものを着たはるちゃんかドキドキしながらかがみを見るページ (本文P18-P19)



よそゆきに着がえたはるちゃんたちはこの後写真館で家族写真をとってもらいます。当時、カメラはまだ高級品で庶民には手が届きませんでしたから写真は写真館でとってもらうものでした。



デパートナントストア

はるちゃんの子どものころはよそゆきのきものでオシャレをしてデパートでショッピングをするのはあこがれでした!



1914年開店の11サンス様式の三越日本橋店には屋上庭園があり日本初のエスカレーター・エレベーターがあった。

1904年の「デパートストア宣言」をした三越呉服店がデパート第一号。その後岡山・福屋・福岡・岩田屋・札幌・札幌・札幌等に広がりました。制服姿のデパート店員はとても人気のある職業でした。

1921年までははきものを脱いで入場していたそうです!

活動映画



子ども大人も映画は大好きで各地に映画館ができて大々的でした。映画館のない地方では学校や集会所で短編の喜劇映画上映会(ニコニコ大会)が開かれ子どもたちは大いに楽しみにしていました。

銀グラタム
ファッションチェンク
銀座を歩く人々の服装を調べたところ洋服1に対して和服99という結果に!
1925年(大正14年)当時

洗顔



又か1回ごとに新しいものに...
洗顔をのびと...
洗顔をのびと...
洗顔をのびと...

生活用水は井戸水が主でした。井戸水は硬水で石けんは泡立たないので洗顔料には米ヌカ・洗粉(小豆・緑豆等を米粉に混ぜたもの)がよく使われていました。(高級品であった)石けんを使うときは井戸水をくみ置いたりほう酸を入れたりして軟水にしてから使用しました。化粧品はハチマキ、きゅうり水、レモン水等自然派のものが好まれました。手作り派も!